

「尚徳」 1月号 第592号 令和4年2月7日

鳥取大学附属小学校 学校便り

<https://sho.fuzoku.tottori-u.ac.jp/>



題字「尚徳」は、住川英明 地域学部教授 (元校長)

コロナ禍から学び取ること

副校長 葉狩 学

2022年(令和4年)を迎え、早いもので1か月が過ぎました。年始の寒波は厳しく、山間部では解ける間もなく降り積もった雪が今なお山裾や路肩にたくさん残っています。

全国各地で連日、過去最大の感染者を記録するなど、感染力の強いオミクロン株が全国で急激に蔓延しています。鳥取県内においても全域で感染拡大の様相があり「鳥取県版新型コロナ特別警報」が発令されています。一層の高い緊張感をもって、感染予防対策の徹底を図っていかなくてはなりません。保護者の皆様におかれましては、本校の感染対策にご理解とご協力をいただくとともに、家庭におかれましては、発熱等風邪症状の場合は医療受診を積極的に行うなど、感染拡大防止の徹底した取組をお願いします。

さて、今年の干支は「寅」です。「寅」の原字には矢が曲がることなくまっすぐに伸ばすという意味があり、例えば、物事が滞りなく進むという意味をもつ「演」という漢字ができたそうです。とは言いましても、昨今のコロナ禍の中、学校生活では様々な制限がある中、学校行事の開催は延期あるいは内容の見直しといった紆余曲折を経ながら実施しているのが現状です。「寅」のもつ意味のように、迷うことなく学校行事が実施できる状況になることを願うばかりです。


話は変わりまして、昨年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公で、近代日本経済の父といわれる渋沢栄一は、著書『論語と算盤』の中で次のように述べています。

「**不断の勉強を望むと同時に、物事に対する平生(へいぜい)の注意を怠らぬように心掛けることを説きたいと思うのである。**」

学問の大切さはもちろん認めつつも、それだけだと思ったら大きな誤解だとも述べています。日々の暮らしのなかで注意を怠らず、「自分の人生に起こるさまざまな事象を教訓にせよ」ともいっているのです。コロナ禍の中では、本当にいろいろなことが起こります。しかし、私たちはその時々日々の生活から得られる教訓に目を向け、そこから学ぶことも忘れてはいけません。コロナ禍は、子供を取り巻く環境としてはピンチかもしれませんが、学び取ることもたくさんあるのです。学んだことを考え、そして、少しでも自分のものにすることが大切なのではないのでしょうか。

今年も新型コロナウイルスの影響下での学校生活ではありますが、子供たちにとって、小学校生活のこのときは一生に一度しかありません。その年に学ぶべきこと、その年に経験すべきことがあります。知恵を出すことでできることは必ずあると思います。徹底した感染予防対策を行い、教育の質を下げることなく工夫して学校教育を行って参ります。引き続きご協力、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

2月の行事予定

1日(火)【A週】 記名調べ	18日(金) 集金引落日	
7日(月)【B週】 研究日	21日(月)【B週】 研究日	
11日(金) 建国記念の日(祝日)	23日(水) 天皇誕生日(祝日)	
14日(月)【A週】	28日(月)【A週】	
16日(水) 代表委員会 職員会議		
新型コロナウイルスの感染状況により行事の見直しをしてお り、個別懇談の実施について、現時点では未定です。		

学校の様子・子供の様子

冬休み明け全校集会

1月7日(金)に、冬休み明けの全校集会を行いました。年末からのコロナ感染拡大を受け、リモートでの実施としました。

校長先生より今年一年の計画、目標を立てることの大切さを聞き、各学年代表より学年末に向けての抱負、今年一年の目標などの発表がありました。

学校でもコロナとの戦いが続きますが、その中であってできることをしっかりと行いながら、それぞれの学年で身に付けるべき力をしっかりと身に付けられるよう、気持ちを新たにしているところです。

